
箱の中の鏡

しかしそれでもツッコんでしまう麻雀小僧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

箱の中の鏡

【Nコード】

N7256P

【作者名】

しかしそれでもツッコんでしまう麻雀小僧

【あらすじ】

青年が女性にプレゼントをする話

とある職人街に一人の若い青年が居た。

彼の職人としての技術は高く、長年その道を極めてきた他の職人達と比べても遜色が無いほどだった。

ある日青年は一人の女性に恋をした。

しかし今まで自分の技術を高めることしかしてこなかった彼にはどうやってその女性に気持ちを伝えれば良いのかわからなかった。

彼はそんな悩みを同じ職人仲間である友人に打ち明けると笑いながらこんなアドバイスを受けた。

” お前には立派な腕があるんだからその気持ちが伝わるモノを作ってプレゼントすれば良いじゃないか ”

やがて彼は一つのモノを仕上げた。

それは彼が友人のアドバイスの通りに自分の気持ちを伝えるために、今までの何倍も時間をかけ何倍も丁寧に作り上げた一級品の代物だった。

彼はその品を丁寧に箱に入れそのまま脇に抱えて工房を飛び出した。いつも通りなら丁度女性が街の広場を通りかかる時間だった。

彼は息を切らせて広場にたどり着いた。

女性はまだ見えない。

彼が息を整えていると向こうからこちらにやってくる女性が見えた。彼は緊張で手足が震えだしたが意を決して女性の前に飛び出した。

女性の前に箱を差し出し蓋を開け ” どうか受け取ってください ” と叫んだ。

女性は箱の中を覗き込み言った。

「 こんな小汚い人形趣味じゃないわ 」

彼はその言葉にショックを受け静かに蓋を閉じた。

とある職人街に一人の若い青年が居た。

彼の職人としての技術は高く、長年その道を極めてきた他の職人達と比べても遜色が無いほどだった。

ある日青年は一人の女性に恋をした。

しかし今まで自分の技術を高めることしかしてこなかった彼にはどうやってその女性に気持ちを伝えれば良いのかわからなかった。

彼はそんな悩みを同じ職人仲間である友人に打ち明けると笑いながらこんなアドバイスを受けた。

” お前には立派な腕があるんだからその気持ちが伝わるモノを作ってプレゼントすれば良いじゃないか ”

やがて彼は一つのモノを仕上げた。

それは彼が友人のアドバイスの通りに自分の気持ちを伝えるために、今までの何倍も時間をかけ何倍も丁寧に作り上げた一級品の代物だった。

彼はその品を丁寧に箱に入れそのまま脇に抱えて工房を飛び出した。いつも通りなら丁度女性が街の広場を通りかかる時間だった。

彼は息を切らせて広場にたどり着いた。

女性はまだ見えない。

彼が息を整えていると向こうからこちらにやってくる女性が見えた。彼は緊張で手足が震えだしたが意を決して女性の前に飛び出した。

女性の前に箱を差し出し蓋を開け ” どうか受け取ってください ” と叫んだ。

女性は箱の中を覗き込み言った。

「まあ素敵な指輪ね、ありがとう凄く嬉しいわ」

彼はその言葉にショックを受け静かに蓋を閉じた。

とある職人街に一人の若い青年が居た。

彼の職人としての技術は高く、長年その道を極めてきた他の職人達と比べても遜色が無いほどだった。

ある日青年は一人の女性に恋をした。

しかし今まで自分の技術を高めることしかしてこなかった彼にはどうやってその女性に気持ちを伝えれば良いのかわからなかった。

彼はそんな悩みを同じ職人仲間である友人に打ち明けると笑いながらこんなアドバイスを受けた。

” お前には立派な腕があるんだからその気持ちが伝わるモノを作ってプレゼントすれば良いじゃないか ”

やがて彼は一つのモノを仕上げた。

それは彼が友人のアドバイスの通りに自分の気持ちを伝えるために、今までの何倍も時間をかけ何倍も丁寧に作り上げた一級品の代物だった。

彼はその品を丁寧に箱に入れそのまま脇に抱えて工房を飛び出した。いつも通りなら丁度女性が街の広場を通りかかる時間だった。

彼は息を切らせて広場にたどり着いた。

女性はまだ見えない。

彼が息を整えていると向こうからこちらにやってくる女性が見えた。彼は緊張で手足が震えだしたが意を決して女性の前に飛び出した。

女性の前に箱を差し出し蓋を開け ” どうか受け取ってください ” と叫んだ。

女性は箱の中を覗き込み言った。

「あら、とても綺麗な鏡ね」

（後書き）

タイトルでネタバレ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7256p/>

箱の中の鏡

2011年11月14日22時58分発行